

# 再犯防止へ回復支援

⑤

薬物やアルコール、インターネットへの依存、窃盗症、摂食障害、家庭内の暴力……。『アディクション』と呼ばれる嗜癖（しへき）、嗜虐（しぎやく）行為に陥っている人の犯罪は、刑罰だけでは再発を防止できない。背景には社会からの孤立がある。様々な分野に広がる問題行動に対処しようと、横断的に連携、協力できる新しい受け皿づくりを「指す動きが出てきた」。

今春、各分野で活動する専門家や支援者、当事者が集まった講習会が東京都内で開かれた。目的は「アディクション円卓会議」の創設のための人材養成だ。薬物依存症回復施設のダ

## 孤立に背景 嗜虐・嗜癖



創設のための講習会、円卓会議の専門家や支援者、当事者（東京都千代田区）

### 「円卓会議」で支え手連携

ルクに関わってきた石塚伸一・龍谷大学教授は、再犯防止の回復を支援するネットワークの構築（A T）に取り組み、科学技術振興機構の委託事業として、石塚教授によると、アディクションの根底にあるのは自身の生き方と人との関わりを巡る課題という。人は不快な衝動を感じたときに感情や行動に表してコントロールする。が、虐待などで人を信頼できず、助けを求めるといった行動を体得できないと、アディクションによるつかの間の解決を求め、それが重なることで脳にも快楽的な効果及び習慣化していく。

「多様化するアディクションからの回復を支援するネットワークの構築」（A T）に取組む。科学技術振興機構の委託事業として、石塚教授によると、アディクションの根底にあるのは自身の生き方と人との関わりを巡る課題という。人は不快な衝動を感じたときに感情や行動に表してコントロールする。が、虐待などで人を信頼できず、助けを求めるといった行動を体得できないと、アディクションによるつかの間の解決を求め、それが重なることで脳にも快楽的な効果及び習慣化していく。

「歯止めがきかない」という人を一人で支えることは困難なうえ、衝動をコントロールできるように様々な体験を積み重ねる必要がある。多くの関係者が協力し合える仕組みが不可欠だ。研究事業に参加する性犯罪問題の支援組織、一般社団法人「もふもふネット」（大阪市、藤岡淳子代表）と話す。

「回復支援に重点を置き始めた再犯防止対策への困りの施策を民間の知見を集めて後押しし、日本型回復モデルを生み出したい」と石塚教授は話している。

「回復支援に重点を置き始めた再犯防止対策への困りの施策を民間の知見を集めて後押しし、日本型回復モデルを生み出したい」と石塚教授は話している。

「回復支援に重点を置き始めた再犯防止対策への困りの施策を民間の知見を集めて後押しし、日本型回復モデルを生み出したい」と石塚教授は話している。

「回復支援に重点を置き始めた再犯防止対策への困りの施策を民間の知見を集めて後押しし、日本型回復モデルを生み出したい」と石塚教授は話している。

### 広角鋭角

「回復支援に重点を置き始めた再犯防止対策への困りの施策を民間の知見を集めて後押しし、日本型回復モデルを生み出したい」と石塚教授は話している。

「回復支援に重点を置き始めた再犯防止対策への困りの施策を民間の知見を集めて後押しし、日本型回復モデルを生み出したい」と石塚教授は話している。